

## ヨハネの手紙第一3章7-10節 「神の子どもと悪魔の子ども」

### 1A キリストの義に従う者 7

### 2A 悪魔から出た者 8

1B 初めから罪を犯している者

2B 悪魔のわざを打ち破る神の御子

### 3A 神から生まれた者 9

1B 神の種

2B 罪を犯すことのできない者

### 4A 悪魔の子どもとの区別

1B 義を行わない者

2B 兄弟を愛さない者

## 本文

ヨハネの手紙第一 3章を開いてください、私たちの第一の手紙の学びは、先週、3章6節まで来ました。今晚は、7節から10章まで見ていきたいと思います。「<sup>7</sup> 幼子たち、だれにも惑わされてはいけません。義を行う者は、キリストが正しい方であるように、正しい人です。<sup>8</sup> 罪を犯している者は、悪魔から出た者です。悪魔は初めから罪を犯しているからです。その悪魔のわざを打ち破るために、神の御子が現れました。<sup>9</sup> 神から生まれた者はだれも、罪を犯しません。神の種がその人のうちにとどまっているからです。その人は神から生まれたので、罪を犯すことができないのです。<sup>10</sup> このことによって、神の子どもと悪魔の子どもの区別がはっきりします。義を行わない者はだれであれ、神から出た者ではありません。兄弟を愛さない者もそうです。」

私たちは、2章29節で、次の言葉を読みました。「義を行う者もみな神から生まれたことが分かるはずです。」義を行うことと、神から生まれたことがそのままつながっているということです。今晚は、今、本文で読みましたように、神から生まれた者、神の子どもについて見ていきます。同時に、罪を犯している者たちが悪魔から出た者、悪魔の子どもという区別について見ていきます。私たちは、信仰を持った者が、神から生まれた者、神の子どもになるということをよく知っていますが、それが一体、どういうことなのかを本文から読み取ってみたいと思います。

### 1A キリストの義に従う者 7

<sup>7</sup> 幼子たち、だれにも惑わされてはいけません。義を行う者は、キリストが正しい方であるように、正しい人です。

ヨハネは、信じてもまだ間もない人々を意識して、語りかけています。「**幼子たち**」と呼びかけてい

ますね。幼子たちには、あらゆる惑わしの力が働きます。偽教師たちが近づき、幼子たちの信仰を奪い取ろうとします。2章18節では、多くの反キリストが現れているということを幼子たちに警告しました。「幼子たち、今は終わりの時です。反キリストが来るとあなたがたが聞いていたとおり、今や多くの反キリストが現れています。それによって、今は終わりの時であると分かります。」

反キリスト、または偽教師たちは、義を行っておらず、罪を犯しているのに、それで義人のようなふるまいをしていたと考えられます。そして、信仰の小さき者たち、キリストに倣って生きて行こうと精いっぱい、努めている者たちを見下し、「あなたがたは真の知識に達していない」とみなします。そういった彼らの惑わしに対して、「**義を行う者は、キリストが正しい方であるように、正しい人です。**」と言っているのです。

私たちは、何度となくこの手紙の中で、キリストに倣って歩むことを教えられています。「2:6 神のうちにとどまっていると言う人は、自分もイエスが歩まれたように歩まなければなりません。」とヨハネは言いました。イエス様は、何度となく、語っているだけで行わない者たちに対して警鐘を鳴らしました。「マタ 7:26 わたしのこれらのことばを聞いて、それを行わない者はみな、砂の上に自分の家を建てた愚かな人にとえることができます。」知識を誇っているけれども、行っていないパリサイ人や律法学者のことについてはこう言っています。「マタ 23:2-3 律法学者たちやパリサイ人たちはモーセの座に着いています。3 ですから、彼らがあなたがたに言うことはすべて実行し、守りなさい。しかし、彼らの行いをまねてはいけません。彼らは言うだけで実行しないからです。」言っていることが、その人がそのように歩んでいる保障にならないのです。ですから、ヨハネはここで、「**義を行う者は、キリストが正しい方であるように、正しい人です。**」と行うことを強調しています。

前回もお話ししましたが、使徒たちの時代に偽教師と言われている者たちのふるまいは、実に横暴なものでした。パウロがテモテへの手紙で語り、ペテロは第二の手紙で、ユダも手紙の中で語っています。ペテロ第二 2章10節には、「特に、汚れた欲望のままに肉に従って歩み、権威を侮る者たちに対して、主はそうされます。」とあります。これは、教会における権威、この世における権威のどちらも、です。立てられている人々に対して、主が立てられたということで、権威を尊重するのです。それらを見做し、完全に悪魔であるかのようにみなすのは、反キリストの霊が働いているといつてよいです。イエス様は、十字架に処する権威が自分に与えられているという総督ピラトに対して、「ヨハ 19:11 上から与えられているのでなければ、あなたはわたしに対して何の権威もありません。」と言われました。主ご自身を十字架に付ける者に対して、上から与えられていると言われたのです。そして、権威を侮る者たちは、決まって自分自身の欲望に対しては放縦のままであることが特徴的です。言っていることとやっていることが、極端に乖離しています。

## **2A 悪魔から出た者 8**

**<sup>8</sup> 罪を犯している者は、悪魔から出た者です。悪魔は初めから罪を犯しているからです。その悪魔**

のわざを打ち破るために、神の御子が現れました。

ヨハネは、罪を犯している者たちの背後の存在を、はっきりと伝えています。前回の学びで、6 節、「罪を犯す者はだれも、キリストを見たこともなく、知ってもいません。」と書いていました。どんなに、言葉では滑らかなことを言っていたとしても、キリストを見たこともなく、知ってもいません。罪を犯しているからです。その根源は悪魔だとはっきり言っています。

主は、ユダヤ人たちとのやり取りで、はっきりとこのことを言われたことがあり、それに基づいてヨハネは教えています。「ヨハ8:43-44 あなたがたは、なぜわたしの話が分からないのですか。それは、わたしのことばに聞き従うことができないからです。44 あなたがたは、悪魔である父から出た者であって、あなたがたの父の欲望を成し遂げたいと思っています。悪魔は初めから人殺しで、真理に立っていません。彼のうちには真理がないからです。悪魔は、偽りを言うとき、自分の本性から話します。なぜなら彼は偽り者、また偽りの父だからです。」

このイエス様の言葉を使って、ユダヤ人は悪魔の子であるという解釈を教会が施し、今になっても反ユダヤ主義者らは使っていますが、拡大解釈も甚だしいです。文脈を見れば、ここはイエスご自身が、わたしのことばに留まれば自由になる、罪から自由になると言われた時に、それに聞き従えないユダヤ人たちが、イエス様を殺すという宗教指導者らの煽りに乗って行って、心に殺意を抱いていたからです。自分たちの父は、アブラハムだ、神ご自身だと言っていたので、「アブラハムはそんなことをしない、人を殺すようなことはしなかった。」「あなたがたは、神ではなく、悪魔を父としているのです。」とされているのです。

しかも、この箇所は、「8:30 イエスがこれらのことを話されると、多くの者がイエスを信じた。」とあるように、信じたと言っている人々がそうなっているのです。主は、「8:31 あなたがたは、わたしのことばにとどまるなら、本当にわたしの弟子です。」と言われて、信じているといっても、みことばがとどまっておらず、表面的な信仰だったことが明らかなのです。つまり、信じているといっても、言っているだけで、聞き従っていない、神から生まれていないということでした。使徒ヨハネは、第一の手紙でこういった、言っているだけという人々、また言っているだけを正当化する偽教師たちのことを意識して、警戒するように一般の信者に問いかけているのです。

ですから、罪というのが、その性質からして悪魔的なのだということを忘れてはいけません。罪は神とは相いれないものであり、悪魔からのものであり、罪に対する憎しみ、嫌悪感を健全に正しく持つべきでしょう。

### 1B 初めから罪を犯している者

ヨハネは、「**悪魔は初めから罪を犯している**」と書いています。初めから人殺しと主は言われまし

たし、初めから罪を犯しているところでヨハネは言っています。これは、人が罪を犯した時のことを話しています。エバが蛇によって惑わされ、アダムがそれで罪を犯しましたが、その蛇は悪魔によって語っていたことは、黙示 12 章から明らかです。悪魔が、「古い蛇」と呼ばれています。イザヤ書 14 章に出て来る、バビロンの王に対する預言の中で、明けの明星と呼ばれる存在が出ています。バビロンの王の背後にいた悪魔の存在です。「イザ 14:12-15 明けの明星、暁の子よ。どうしておまえは天から落ちたのか。国々を打ち破った者よ。どうしておまえは地に切り倒されたのか。13 おまえは心の中で言った。『私は天に上ろう。神の星々のはるか上に私の王座を上げ、北の果てにある会合の山で座に着こう。14 密雲の頂に上り、いと高き方のようになろう。』15 だが、おまえはよみに落とされ、穴の底に落とされる。」これが罪の始まりです。このようにして天から落ちたので、悪魔は、蛇の形をしてエバに現れ、同じ高ぶりという誘惑をもってエバを誘惑しました。

## 2B 悪魔のわざを打ち破る神の御子

そして、「その悪魔のわざを打ち破るために、神の御子が現れました。」と言っています。5 節では、「キリストは罪を取り除くために現れた」と教えていました。人に罪を犯すように惑わし、神と人との関係を引き離し、自分と同じ定め、永遠の燃える火に投げ込まれることに引きずり込もうとするのが、悪魔です。その悪魔の仕業を御子が打ち破るために現れました。私たちは、御子のなされたこの大きな働きには、罪を取り除いたということほど注目していない面があります。

アダムが罪を犯してすぐに、主なる神は蛇に対して呪いを宣言されました。「創 3:14 神である【主】は蛇に言われた。「おまえは、このようなことをしたので、どんな家畜よりも、どんな野の生き物よりもろわれる。おまえは腹這いで動き回り、一生、ちりを食べることになる。15 わたしは敵意を、おまえと女の間に、おまえの子孫と女の子孫の間に置く。彼はおまえの頭を打ち、おまえは彼のかかとを打つ。」かかとを打つというのは、闇の勢力によってイエス様は捕らえられ、十字架に磔にされたことです。しかし、彼が気づかなかったのは、その十字架におけるキリストの御業が、悪魔の脳天を打ち砕くものであったということです。

ヘブル書の著者はこう言っています。「2:14-15 そういうわけで、子たちがみな血と肉を持っているので、イエスもまた同じように、それらのものをお持ちになりました。それは、死の力を持つ者、すなわち、悪魔をご自分の死によって滅ぼし、15 死の恐怖によって一生涯奴隷としてつながれていた人々を解放するためでした。」パウロはこう語っています、「コロ 2:13-15 背きのうちにあり、また肉の割礼がなく、死んだ者であったあなたがたを、神はキリストとともに生かしてくださいました。私たちのすべての背きを赦し、14 私たちに不利な、様々な規定で私たちを責め立てている債務証書を無効にし、それを十字架に釘付けにして取り除いてくださいました。15 そして、様々な支配と権威の武装を解除し、それらをキリストの凱旋の行列に捕虜として加えて、さらしものにされました。」悪魔を始めとする支配や権威を、捕虜としてさらしものにしておられます。

ですから、福音書には御子が現れて、それで悪霊どもが暴れ出す場面が数多く見ました。例えば、高い山から主と弟子三人が降りてきた時に、口をきけなくする霊にとりつかれた男の子がいました。「マル 9:18 その霊が息子に取りつくと、ところかまわず倒します。息子は泡を吹き、歯ざりして、からだをこわばらせます。それであなたのお弟子たちに、霊を追い出してくださいとお願いしたのですが、できませんでした。」このように、悪霊は一人の男の子を痛めつけていました。イエス様は、「ヨハ 10:10 盗人が来るのは、盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするためにほかなりません。」と言われましたが、これは悪魔にも当てはまるでしょう。

同じヨハネが書き記した黙示録は、悪魔のわざを打ち破るという御子の現れを、大きな神のご計画の中で描いています。12章で、悪魔が天におけるミカエルとの戦いで投げ落とされます。そして天において大きな声がして、「12:10 神のキリストの権威が現れた。」とっています。それから、「12:11 兄弟たちは、子羊の血と自分たちの証しのことばのゆえに竜に打ち勝った。」とあります。子羊の血によって悪魔に打ち勝ちました。それから、主が天から現れて、ご自分に歯向かう、獣の率いる世界の軍隊に戦われます。獣は、燃える火の中に投げ込まれますが、悪魔は、千年間、底知れぬ所で鎖につながれます。そして千年後、解き放たれて、それから火の池に投げ込まれることが預言されています。

私たちはこうした、壮大な霊の戦いの中にいることを忘れてはいけません。敵が誰であるかを忘れてはなりません。ある説教者が、かつて、緊急事態宣言を為政者や当局は解除しても、キリスト者にとっては、悪魔がエバを惑わした時から世界は緊急事態の状態であり、正常ではないのだと話しました。そうした緊張状態の中で、私たちは目を覚まし、信仰の戦いを戦うのです。

### 3A 神から生まれた者 9

<sup>9</sup> 神から生まれた者はだれも、罪を犯しません。神の種がその人のうちにとどまっているからです。その人は神から生まれたので、罪を犯すことができないのです。

罪を犯している者が悪魔から出ているのに対して、神から生まれた者は罪を犯さないと断言しています。これは、前回学んだように、一度も罪を犯さないということではなく、罪を犯し続ける歩みをするとはできない、ということです。1章において、罪を犯さない、罪がないという人は欺いていると言っており、ここでの「**罪を犯しません**」は、罪を犯している状態の中にいないということを表しています。

### 1B 神の種

ここで興味深いのは、「**神の種がその人のうちにとどまっているから**」と言っていることです。植物の種が土に落ちて、芽を出し、成長し、実を結ばせるときに、それはその種を持つ同じ種類の植物の実であることがわかります。リンゴの種であれば、リンゴ。お米であれば、必ずお米ができます。

人も同じで、種というか、子種と言ったら分かりやすいでしょう、男性の精子にある DNA 情報をもって、そこから生まれてくる子は親の DNA を受け継いでいるのです。それと同じように、神から生まれた者は、神からの種を持っています。この方を父と呼ぶ、御霊を受けたのです。

ヨハネは福音書の中で、この話を伝えています。「1:12-13 しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとなる特権をお与えになった。13 この人々は、血によってではなく、肉の望むところでも人の意志によってでもなく、ただ、神によって生まれたのである。」全くもって、自分の肉なる力で神のみこころを行い、正しいことをすることはできないことを教えられます。私たちが肉の意欲で生まれてくることができましたでしょうか？いいえ、同じように、ただ神によって生まれなにかぎり、義を行うことはできないのです。

イエス様とニコデモとの話で、この真理を伝えています。ニコデモは、パリサイ派の人で、サンヘドリンの一員でもあり、誠実そうな人でした。ところがイエス様は言われました、「ヨハ 3:3 まことに、まことに、あなたに言います。人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。」ニコデモが、赤ん坊になってどうやって母の胎内に入ることができますかと尋ねると、「3:5-6 まことに、まことに、あなたに言います。人は、水と御霊によって生まれなければ、神の国に入ることはできません。6 肉によって生まれた者は肉です。御霊によって生まれた者は霊です。」と答えられました。この肉体が新たに生まれるのではなく、初めは肉体、次に霊にあって生まれることなのだ、ということです。生まれながらの人は、その罪によって死んでおり、神から離れています。御霊によって新しく生まれ、それで神の子どもになれます。それは、「3:15 信じる者がみな、人の子にあって永遠のいのちを持つ」と言われたように、イエスを信じることによって新たに生まれ、神の子どもになれるのです。

そして新約聖書では、神のことばと、福音のことばが人を新たに生まれさせることを話しています。「Ⅰペテ 1:23 あなたがたが新しく生まれたのは、朽ちる種からではなく朽ちない種からであり、生きた、いつまでも残る、神のことばによるのです。」ペテロの他にヤコブも手紙でこう言っています、「ヤコブ 1:18 この父が私たちを、いわば被造物の初穂にするために、みこころのままに真理のことばをもって生んでくださいました。」ですから、みことばによって新たに生まれた私たちが、みことばに留まることは、この命を保っているのに重要なのです。詩篇の著者は言いました、「119:11 私はあなたのみことばを心に蓄えます。あなたの前に罪ある者とならないために。」

## 2B 罪を犯すことのできない者

そして、「その人は神から生まれたので、罪を犯すことができないのです。」と述べています。神によって生まれた者は、神の新しい性質が与えられたので、罪を犯したままいることができません。パウロが、「Ⅱコリ 5:17 だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。」と述べています。新しい性質にあるので、

古い習慣はあるけれども、もうそこに留まることができなくなるのです。ちょうどそれは、自分の国籍が別の国になったようなもので、古い国にいることはできたとしても住みづらくなり、新しい国籍の国にいることが落ち着くようになるのと似ています。悪魔は、古い自分がいるのを「ほら、何も変わっていない」と言い含みますが、いいえ、逆で、新しく造られた自分があり、古い自分は残像、残骸にしかすぎないのです。パウロは言いました、「ロマ 6:2 罪に対して死んだ私たちが、どうしてなおも罪のうちに生きていられるでしょうか。」

ここで大事なのは、かつて私たちは、自分は自分で生きていたと思っていました。けれども、今や、自分はすでに死んでおり、内に生きておられるキリストを信じる信仰によって生きるのです。自分が強くなって、それでキリストについていくのではなく、自分が死んで、この方に生きていただき、それで生きるのです。ですから、祈りと信仰、御霊の導きによって生きる生活に変えられました。頼らざるを得ない生活、この方の御名を呼び求めながら生きる生活に変えられたのです。「ロマ 8:9-10 しかし、もし神の御霊があなたがたのうちに住んでおられるなら、あなたがたは肉のうちではなく、御霊のうちにいるのです。もし、キリストの御霊を持っていない人がいれば、その人はキリストのものではありません。10 キリストがあなたがたのうちにおられるなら、からだは罪のゆえに死んでいても、御霊が義のゆえにいのちとなっています。」

新しく生まれたゆえ、神の子どもとなったゆえに、不義とは交わることができないことを、パウロはコリント第二 6 章 14 節以降で雄弁に語っています。「14 不信者と、つり合わないくびきをともしてはいけません。正義と不法に何の関わりがあるでしょう。光と闇に何の交わりがあるでしょう。15 キリストとベリアルに何の調和があるでしょう。信者と不信者が何を共有しているでしょう。16 神の宮と偶像に何の一致があるでしょう。私たちは生ける神の宮なのです。神がこう言われるとおりにです。「わたしは彼らの間に住み、また歩む。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。17 それゆえ、彼らの中から出て行き、彼らから離れよ。——主は言われる——汚れたものに触れてはならない。そうすればわたしは、あなたがたを受け入れ、18 わたしはあなたがたの父となり、あなたがたはわたしの息子、娘となる。——全能の主は言われる。」

#### **4A 悪魔の子どもとの区別**

**10 このことによって、神の子どもと悪魔の子どもの区別がはっきりします。義を行わない者はだれであれ、神から出た者ではありません。兄弟を愛さない者もそうです。**

神から生まれるということについて、神の子どもとなるのは、二つの意味があることを以前、お話ししました。それは、その性質にあずかることです。それは今、話した通りです。種が与えられていますから、その性質が与えられています。もう一つは、従順です。父と呼ぶのですから、その父の言うことに聞き従う、その父に倣う者になります。従っているからこそ、言われていることを行っているからこそ、真の子どもと言えるのです。「エペ 5:8-9 あなたがたは以前は闇でしたが、今は、

主にあって光となりました。光の子どもとして歩みなさい。9 あらゆる善意と正義と真実のうちに、光は実を結ぶのです。」

### 1B 義を行わない者

そこで区別がはっきりしていると言っています。その正体がはっきりと現れるということです。正しいことを行なう者と、罪を犯している者と、それが明らかになっていきます。それを畑にまかれた毒麦の喩えでイエス様は語られました。長いですが、13章 24-30節を読みます。「24 イエスは、また別のたとえを彼らに示して言われた。「天の御国は次のようにたとえられます。ある人が自分の畑に良い種を蒔いた。25 ところが人々が眠っている間に敵が来て、麦の中に毒麦を蒔いて立ち去った。26 麦が芽を出し実ったとき、毒麦も現れた。27 それで、しもべたちが主人のところに来て言った。『ご主人様、畑には良い麦を蒔かれたのではなかったでしょうか。どうして毒麦が生えたのでしょうか。』28 主人は言った。『敵がしたことだ。』すると、しもべたちは言った。『それでは、私たちが行って毒麦を抜き集めましょうか。』29 しかし、主人は言った。『いや。毒麦を抜き集めるうちに麦も一緒に抜き取るかもしれない。30 だから、収穫まで両方とも育つままにしておきなさい。収穫の時に、私は刈る者たちに、まず毒麦を集めて焼くために束にし、麦のほうは集めて私の倉に納めなさい、と言おう。』」

この喩えの解き明かしをしておられて、「畑は世界で、良い種は御国の子、毒麦は悪い者の子らです。」と言っておられます。「毒麦を蒔いたのは悪魔であり、収穫は世の終わり、刈る者は御使いたちです。」とされています(13:38-39)。ですから、「**義を行わない者はだれであれ、神から出た者ではありません。**」ということが、終わりの日が近づくにつれ、明らかになっていくのです。パウロが、キプロスで、地方総督につく魔術師エルマに対して、「使 13:10 ああ、あらゆる偽りとあらゆる悪事に満ちた者、悪魔の子、すべての正義の敵、おまえは、主のまっすぐな道を曲げることをやめないのか。」と言いましたが、このように悪魔の仕業が、その不義の行いによって明らかにされていくのです。

### 2B 兄弟を愛さない者

そして、「**兄弟を愛さない者もそうです。**」と言っています、義を行わないことに続けて、兄弟を愛さない者も、神から出ていないとはっきりと述べています。これは 11節から 15節で詳しく語っています。キリスト教会に、個人主義が入り込んでいる今、聞くべき使信がここにあります。神につながっていれば、それで事足りているのだ。教会は、こんなひどいことをしている。クリスチャンはみんな、だめだ。そういったことを言っている中で、イエス様に対して殺意を抱いたユダヤ人たちと同じようになってしまっている、そうしたら神につながっていると言いながら、実は悪魔につながっているのだ、という話です。次回、じっくりと見ていきましょう。今晚は、神から生まれた者が義を行い、罪を犯したままにいることはできないということを見ました。